

素描本

SKETCH BOOK

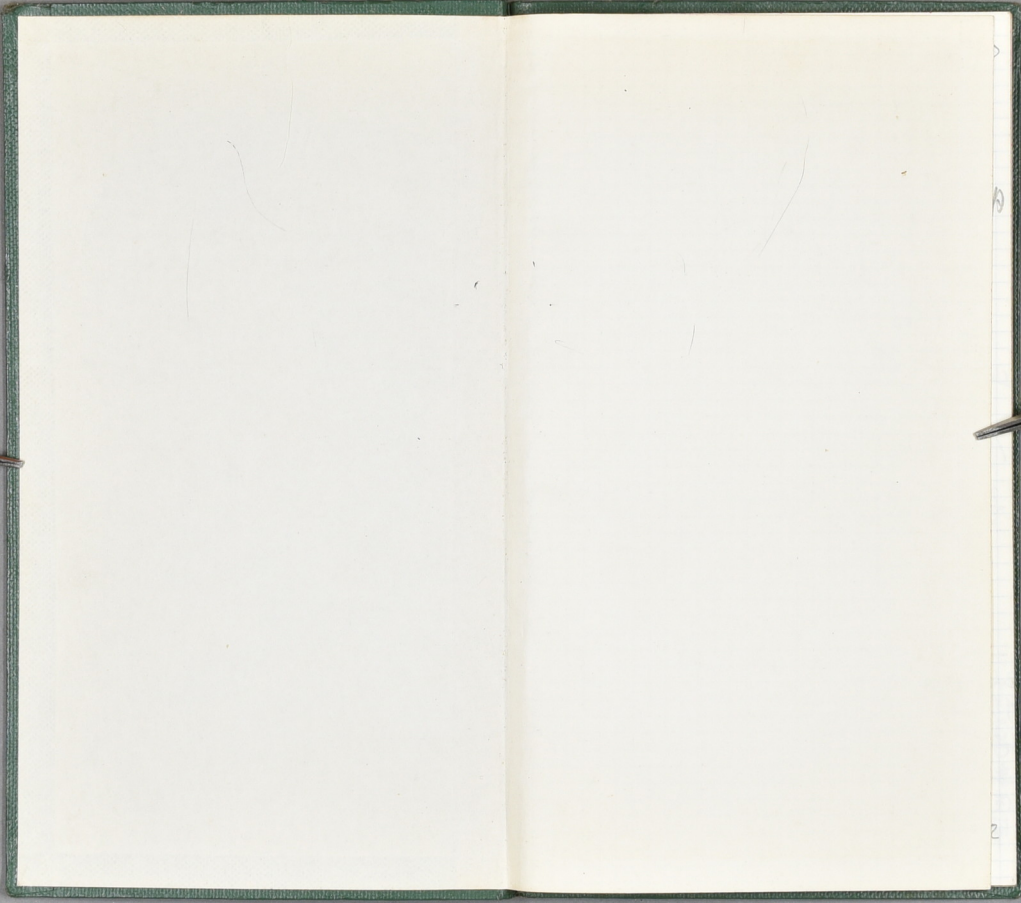
NO. 1

1990

3月

↓

6月



1970

定期

3

10

11

222

小清水町 Mar. 20-23. 1970

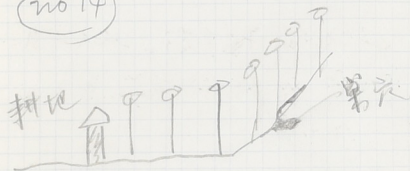
エゾリス 学鳥

イブキが人家近くの広葉樹林、  
ササの木のあけをキツネ(アサギ)の  
巣穴に2口を視察。

この林内に2キツネの巣穴2口。

1口にはキツネの出入した  
足跡あり

no 14



小清水町 May 3-6 1970

May 3 小清水着

竹田津氏宅泊

土砂とミズハニの調査期間

May 4

キツネ巣穴の環境調査  
位置

no 1. (13-4号 10-11編)

牧草地横雑木林 北斜面

ササ厚内5口の巣穴あり。

使用中

ニワトリ羽毛

ウシ糞

紅頭首

あり

牧草地



1963年にすこゝ数年前かゝ発見され  
たといふ。1963年以後は毎年使用

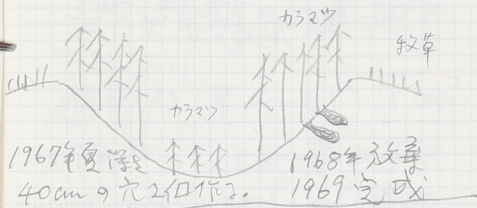
no. 2 (2-3号 8-9線)

牧草地横谷向 カマツ林内

西斜面 4位の穴あり

使用甲 1位は拡大中

ワケミ 1羽羽毛あり

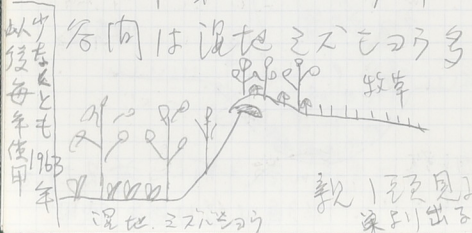


no. 3 (2-3号 7-8線)

牧草地横元藜林内急斜面

面上部 オーバーハング下

谷向は湿地ミズエウ多



no. 4 (3-4号 7-8線)

カマツ林内 未確認

no. 16 (3-4号 10-11線)

1969年 築地

離農農家内

1970年

家破壊の土壌採取

no. 5 (原生花園升側斜面)

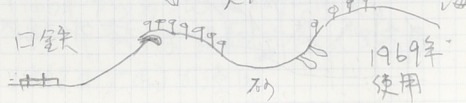
口鉄路路に面したオーバー

ハング下 (1969年使用) 1970年

未使用. この北側斜面

あん部は昨年新築し学舎

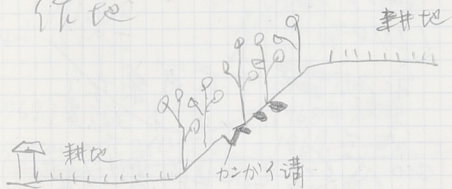
ハマナスあり 1968年につたが工事人  
↓ 夫が造つた



no 6 (15-16号 17-18号)

段丘斜面に草樹林  
(下草4号)内の斜面中腹  
に9本の穴。この下縁に  
かんがい溝(空)

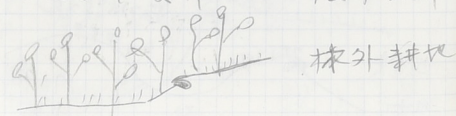
斜面上下は牧草又は耕  
作地



no 7 (10-1号, 18-19号)

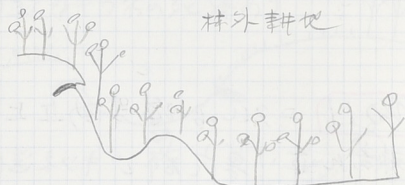
雨天並防風林内斜面  
オーバーハング下

1968年使用迄の後に不使用



no 8 (10-1号 20-21号)

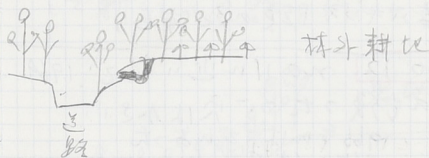
防風林内東斜面オーバー  
ハング下に大きな穴あり



好くは1963年以後毎年使用

no 9 (113-4号 19-20号)

防風林内造路横オーバー  
ハング下および上面



1966年からあったことは実  
1968年からは割同じ調(3本足-  
1967年生れ)が使用

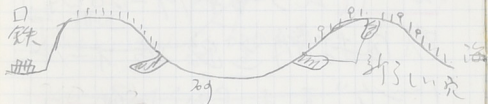
no 10 (北3-4号 19-20号)

那風村

未確認

no 11 = クルに沿 海岸砂丘上

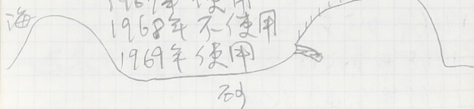
非常に古い巣穴群でキノネ道は  
人間の歩道と同様になっている  
1969年新しい穴を掘り始め  
本年はこれを使用した



若いキノネ1頭の死体あり

no 12 no 11に近い穴で1969

年にも使ったが穴は小さい  
1966年以後はすでにあった  
1967年 使用  
1968年 不使用  
1969年 使用



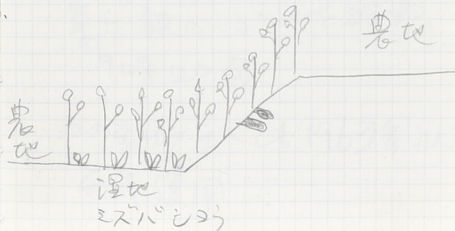
no 13 = クル沿 近くの鉄道  
線から少しはいつた 砂丘上  
の巣群 4穴あり

この付近で<sup>カシ</sup>くちけつは<sup>ハ</sup>んよ  
3頭のキノネの死体あり



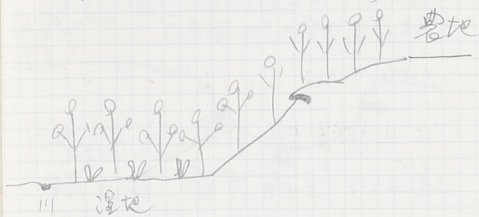
no 14 (6-7号, 17-18号)

段丘斜面林地内、斜面中央  
に掘ったもの。斜面上下は畝  
耕地。1969年の巣から少し程部  
に新しい巣群を作ったもの



no 15 (1-8号, 17-18号)

no 14と同じ斜面のオハ  
ハツグ下の穴 (4本の草)



no 16 新設

May 5-6 晴

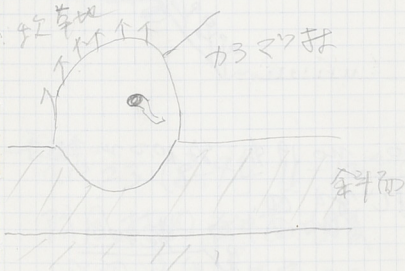
朝 エゾリスの足跡撮影

No 17 (3-4号, 22-23号)

牧草地内の凹地カマツ

林(道路から約50m)

(NHK撮影)



藁の親のいることを確認

90分20分

この学材をここ1963年以後  
毎年使用



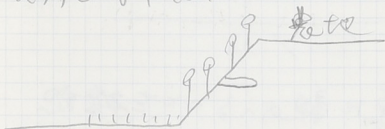
no. 18 (3-4号 21-22号)  
誰鬼家屋(ワヅク)床下

no. 19 湊沸湖畔

緩丘斜面雑木林内上部



no. 20 no. 19から約100m離れた  
と同じ斜面.



no. 21 沢野均宅跡

防空壕跡

1969年まで使用していた  
が埋められたり現在は  
使用不能

no. 22

不明

no. 23 (8-9号 11-12号)

防風林内斜面相変  
ヤ田津氏祖屋の跡  
III型

no. 24 (10-11号 22-23号)

オーバーハング

竹田津氏のみ観察

no. 25 (7-8号, 12-13号)

オーバーハング

1969年冬3頭の子あり

1970年冬1使用不能

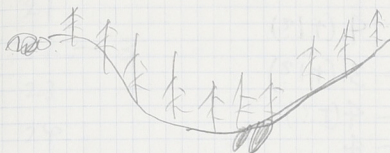
no. 26 (15-16号 14-15号)

カラマツ、かい混林内 □地

斜面 緩傾斜地 2位あり

おんどの天生防風林内

12 1969年冬 単かふたかい推  
返したたため 後部



天然防風林  
掘り進められ  
放棄

no. 27 (0-1号 7-8号)

竹田津氏のみ観察

1969年昆虫表数

no

- 1
- 2 - 4 (+1?)
- 3 - 3 (+1?)
- 4 - 4 (+?)
- 5 - 4
- 6 - 6
- 7
- 8 - 2 (+)
- 9 - 4 (+1?)
- 10 - 2 (+)
- 11 - 3
- 12 - 3
- 13
- 14 - 3
- 15 - 2 (+)
- 16 - 4
- 17 - 4 (+1?)
- 18 - 5

19

20

21

22 - 3

23

24

25 - 3

26

27

4号 15-16号 3头 (+)

0-北1号 14-15号 2 (+)

8-9号 22-23号 5  
(有4头未查)

17-18号 14-15号 林内草部  
斜面(44地)の集、1968年  
春日草在振石小4頭と33(3穴)  
II型集 此以後不使用

別海村西別 May 7-8, 1970

May 7

朝 9時4分 浜小清水を急行して  
西別へ。13:50 西別着

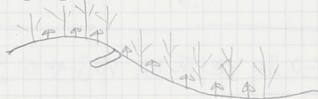
豊草芝浦組合へ。

三原氏の案内で、北矢白別  
の一部の農家を耕す

no1 (11-12号, 北16-17号)

ミズナラ?

カシ、シロカハ 林内のゆりや  
かき斜面の穴。針コササ  
密生



この林は今年の冬から伐採か  
行なわれためこの穴は放棄  
地となっている

穴をまっぴは長い間使われ  
ていた

NO. 2 (44-45線)

標同沢敷地内の草ほんと  
平坦地のカシワ林(シズナ?)  
を伐倒した後、萌芽林で  
(高さ2m位)開けた所  
ある。地上にはミヤコザサか  
生えるが、openである。  
この穴は昨年までは3頭の子か  
びたが今年はずっといない。



北矢(2)別地区は巾子やか  
丘陵地帯で、かや地が引帯  
に多い。そのためキツネ  
常盤地が少なく、平坦地に  
下ったところ。

12-13号 北14-15線の鈴木  
氏の近くの遠藤氏宅~~を~~  
今年の春3月にニワトリ29羽が  
一羽にくわわちのミトクバサミ  
をかけたキツネを早も捕獲  
早は約5am <sup>(3月20日)</sup>ほとの胎児  
6頭をもつており、性は  
2♂4♀であった。  
現在でも4羽でいると  
いふ。この右子は何の  
キツネか？

根室市 May 8-9 1970

May 8 夜 根室市着

伊藤氏下宿泊

May 9 午前

保健所訪問

所長 栗村幸雄氏

衛生課長 今泉利徳氏と

り話をし

11時、穂香の岡村清氏

を訪れ話をし

牛の数の増加と若牛の  
数の急激な増加した

戦後 之は 14-5年以降牛

が急激にふえ、之は同時に

若牛が急激に増え、之は

若牛はウサギはさかめど多い

此のあとに、加キツネの増加  
と共に急激に減少し  
現在では姿をみることも  
困難。今年はずれに2頭  
しかいなくなつた。そのうち1頭も  
きつて殺しつゝである。

招壺市より半島先端部(招壺湾)

釜川、五音川附近の2km  
(汽田・すみ田の間に亙つて)  
の間に一年に約30頭は子  
がいた。

招壺市から稗秀のかけ

実際の導の経緯

佐藤 巧氏 (ハボマの地)

小野孝氏 (trapper) 落石

3月15-20 採集 (招壺) のキツネ  
no. 3.1 ♀ HB. 70 T35.5  
no. 3.35 ♀ (15才) <sup>Kg</sup> — 胎子7頭  
(HB64 T33.5)

May 29 1970 十清水

May 29 - June 3 中津津

May 29

十村君と共に旭川管林局  
神楽管林署、大雪管林署に訪れ  
夏のIBP友雪調査の協力依頼  
夜乗車で十清水へ

May 30 快晴

9:20 浜十清水着

竹田津生宅にて一休み後

no 17の巣で観察開始 午後4時  
(午前11時より) 30分まで

環境写真撮影

この巣の子はすでに親かつかつて出た  
かつつろし、巣の穴の前は土か  
1ビツ外 かたまつこい子が少なくて  
エビムシを多数たし

ハシボロブラス

ジンスイ 鳴り 百子 キツネ築構の  
数寄地

この1-2日はまだいいらしい

no. 6の<sup>新</sup>巣は穴が12個あり

巣の近くにはヒツジの比較的  
新しい頭骨1個、

エゴトリの羽毛類、ビートの  
新しい念い残しなどがあった。  
(このビートは昨年夏収穫のもの)

no. 17の巣

5月)

(20日5頭確認(竹田津)

現在巣は30cm径の大きさに  
あり、最初と比べると新しい

1970年夏使用巣

- ~~5~~, 20, ~~8~~, 10, 17, 14, 6, 8
- ~~24~~, 1, 23, 11, 27, 3, 2
- 4, 7, ~~28~~, 29, 30, 31, 32
- 34, 35, 36

D. Currier



No. 28

19日 5頭

} 2

No 17の巣  
午前午後 竹田清親家

7時 - 10時 2回 (5月20日)

6回

別の日の観察

8:30

1  
40

2回

断  
不  
明

10時

1回

1時

1回

3時

1回

5:30 1回

この直後1回来たか河もこた  
えて来たかった。

no. 20 May 31日晴

子3頭 (木形)

子ウレ右脚部1回、かにかえり

no. 9

巣穴 4回

使用して新しく土を敷いて

か子の遊んた跡はない

no. 10

使用してない。

no 8

木形 40-50cmの子2頭確認  
親なく。

ニトリ羽毛、ウトリ親1羽  
新しくしもある

7-70-7-7-7-7 3時15分  
観察、5時25分親か口ハ一羽  
餌をわてさたか。おんな免が  
子にやらずにいなくなった。  
餌の種類不明。

June 1 曇

no 8

午前9時35分 早稲草  
今日の子はびびりながら。

9:45 子1羽出現

10:15 ニワトリ悲鳴を7-7-7  
流したか子は全くびびり

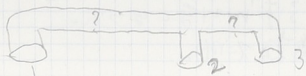
no 8の草の林, ミズナラ林

ミズナラ, センバ, センバ草の  
混生。下の鯉の池への排水が  
多い。樹高約10m~12m

11時20分 同じ1羽(子)がびび  
またか、他の1羽は全くびびり。  
草の中の1羽の親がうねり  
1羽のみ?

12時25分 親の採録用テープ  
設置

2の草は穴が3個あり1mほどは  
下の横穴とす

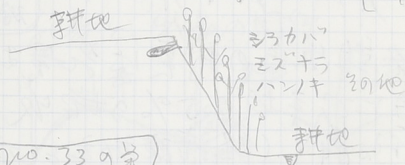


横穴のうねり、2の穴かど'は  
不明。たがし①の穴はいつた  
いつた①の穴か、2'2'2'。他の  
穴か、2'2'2'はす。

no 17

ニワトリ  
スクラウチ) 羽毛

no 28 草はフンドーザら  
かふいせられた(今春)



no. 33の草

no 28と同じ斜面 同様な草  
あるが使用してはなり。単穴は  
250. 2の草は昨年(1969)も  
使わなかった。

20.25の導の述くの相生養組合  
 の最出子午の死産が半頭  
 あり述くの牧草地端の埋め  
 込み。6月1日その中1頭は完全  
 に成りたれ 肋骨と足だけか  
 残つてゐるだけ。他の1頭を  
 振りかいてくつこいのを視察  
 (6月1日午後7時すぎ) 乳は  
 つたはかりが死産は成りたれ  
 ない

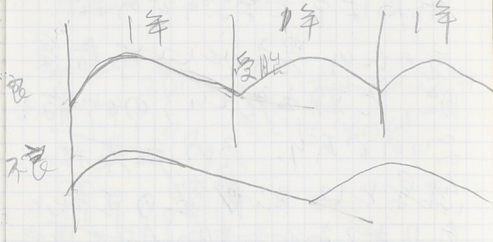
牛の出産時期としては  
 12, 1, 2, 3, 4月が最良

↑  
 乳牛  
 1頭  
 確認

各期出産の利益は乳量生産  
 効率上の平均25%の増収に  
 なる。(年) (経済効率と比)  
 牛1頭の効率に比し約。  
 最大では40%の増収。

EPS 受胎期間 10ヶ月の  
 あるため春期の受胎

之せよば 日長時期が長  
 子時期にあり、草の開始  
 多過も早木の受胎  
 率も最高にあり。同時に  
 産期が冬に少くは  
 出産後2ヶ月の乳のしぼり  
 少ない時期を合せると  
 こころの経済効率が最も  
 少く  
 乳量と出産の間接



夏は暑さのため受胎率は落ち  
 乳量は日長時期の減少  
 のため受胎率が落ちる

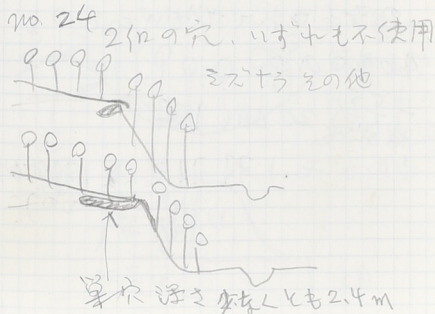
そのため夏や秋の交配は受胎  
 率に危険率が増し、  
 1年1回の妊娠出産にか  
 かるコストは高く存す。

10枚組の1回出産した場合は  
 母乳は長期間にわたるが  
 (結果的に) 乳量は落ち  
 ている2年は高く存す。1年回  
 り出産すると乳量の多い5年  
 間の出産はよりよい方法が  
 結局は良くなるのである。

そのため、農家は1年1回  
 胎、各期にわたるのり最も  
 よいのである。各期にわたる  
 結果として胎盤の生長は  
 なりやすくなり、各期の飼料を豊富  
 にしてやるのである。

6月1日夜 2069 母回 牛生  
 産組合の牛舎横 胎盤  
 (体内の4月 肉も肉も2つ  
 1つ2つや中々2つ2つより  
 3、4kg) を墨子、掃帚  
 糞をかける。此はキツネに  
 夜9:30 母回 牛生

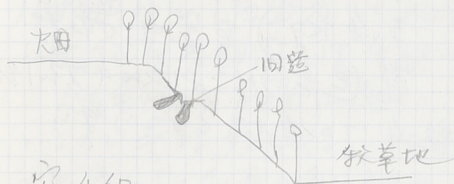
June 24 雨  
 糞撒きは失敗



no. 23 の巣は今年作った筈  
である。かいていなり。♀。  
\*調査

no. 35

町菅がミカババ横 ミズナラ林



穴4個

体長30cm位の小さな子1頭  
確認。畑上の麦畑へ4頭  
の子を連れていっていったという

no 20 の巣

7十約20cm 1匹

カルガモ1羽羽毛(翼1羽分新了  
しいもの)

6月3日曇 経晴

no. 1 体長40cm位のオカワシ  
細体毛の子ギツネ1頭

旭産の子ウシはすびん2頭分  
をくいつくした。但し、野犬2頭  
もついていってこのこと

6月1日に掘り出した子ウシ  
1頭はすびん始んどくいつくした  
いる

no. 36 北~~側~~畑

ミカババ林内 甘草地  
巣穴1個



この巣は  
昨年3頭  
の子4頭の  
親を観察



20 29 西斜面 滝木林内  
炭焼がマ

40-50 cmの子5頭確認  
ビートくい跡(写真)

~~滝木林内~~

June. 4 中標津 地区

1  
6

21-22<sup>北</sup>緯 8-9号

no 1 掌穴 知 ミズナラ  
大木根元 子がかがやい



この掌は少くとも10年ほど  
前か5分ほど前

28-29<sup>北</sup>緯 10-11号

no 2 25-30年ほど前の掌で  
板の跡の跡があるかいはと  
んどろろしてしまっている。

牧草地 横のミズナラ 平地  
地の中の小山 (高さ2mほど)

の上



2002の第1回附近では牧道は  
ほとんどのキツネを見ないといふ。  
牛の placenta は堆肥の中へ  
捨てるが、ほとんどの犬「か」を  
よといふ。

この附近では犬を飼っている  
家が多いが、いすれも誰か  
飼っていて、小清水附近とは  
大変異なる。

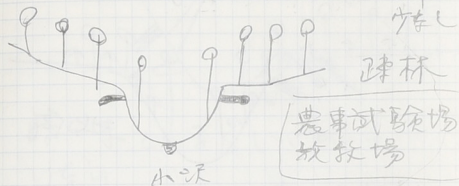
24線-28線北24号の  
南側附近では各農家  
ともほとんどのキツネを見かけ  
ないといふ。

中標津卜場の未石子石  
中標津 12910頭 + 664  
計根別 3640頭 + 614  
西春別 1984頭 + 164

出売数は年を合するとこの倍  
の数をとり、計外3万頭

June 5 晴 21-22線、南3-4号  
no.3 第65号 沢の路桌附近

ミス"ナ。エルク 落木林、下草  
茂し

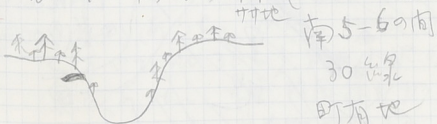


跡をまわるといい足跡はあつか  
いほとんど使っていない

昨年はこの道と使った子巨首を  
たというウサギ、カラスを食った  
跡があったといふ

~~竹井氏宅~~  
山本氏の案内(29線9号)

no.4 カラマツ林(3-4年生)造林地

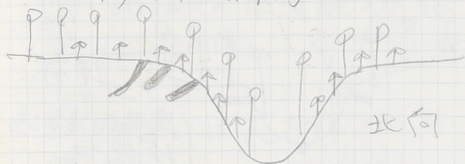


沢の路桌附近 3穴 (北向)

no. 5 10穴 昨年迄使ったが

ミスナラその他林内

3ヶ所



34 34線, 5号

荒草道路予定電横

これは大変よい穴で草子が今年  
休をい使用していい。

田島氏 (36線 7号)

no. 6 東斜面 3穴

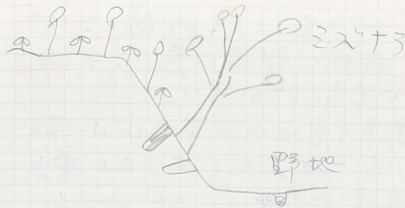
ミスナラ大木根元

雑林

カマツ林



37線から  
100向車室  
9号に近い  
3ヶ所(200向)



昨年来た子ら  
いい。

前原氏 — キツネなど皮屋で  
この附近一帯の皮を  
買集めていた

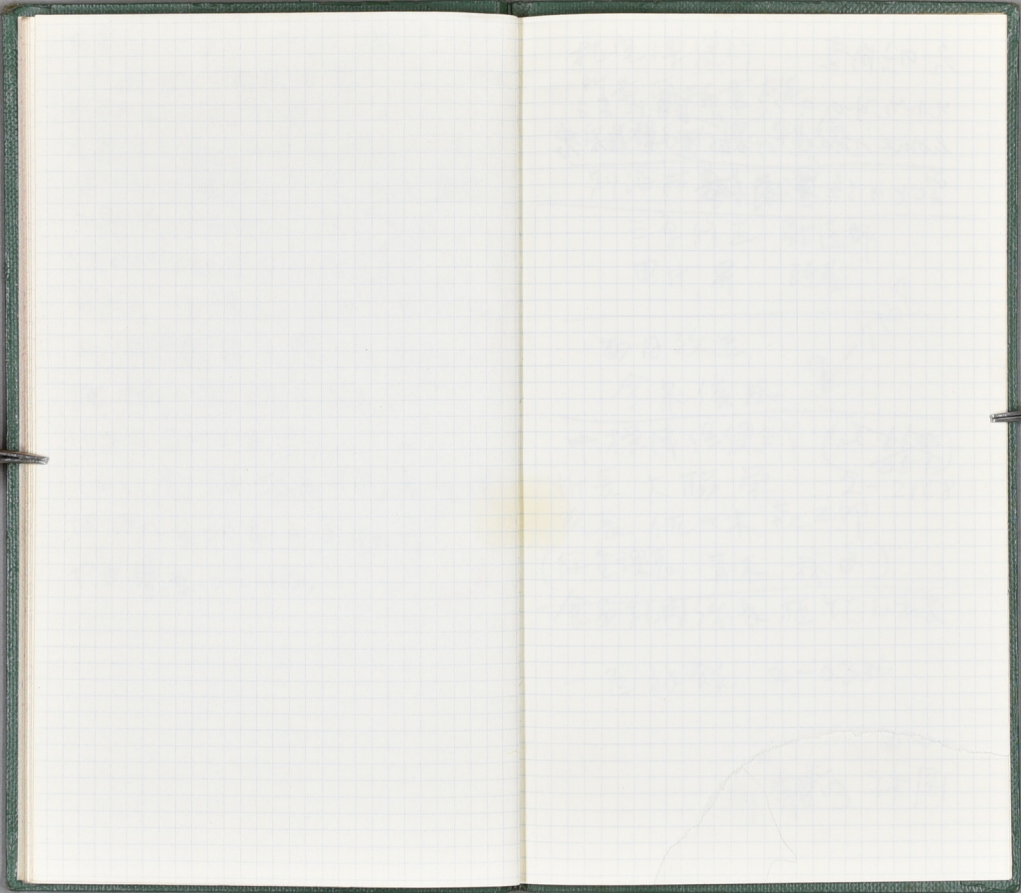
中樽津地域は大部分の農耕地、  
酪農地が平坦な丘にあり  
それらの丘は段丘状を呈する  
ゆえに斜面の起伏を伴って  
このミナラの常葉樹林は  
大変少ない、小川に囲まれた斜面  
程の小沢の縁臺附近に大部分  
の葉が茂った。no. 1, no. 2を除  
くまで(no. 3-6) 小沢の  
奥にあった。また、防風林もカマツ  
造林地が多く、常葉樹林は少ない。  
常葉樹林(ミスナラが主体)内は



下草が少なくよく乾燥している  
この植物の繁殖は悪い。千石が  
すかに生える所が多い。

中津津の畷地や草草畑は小清水  
よりも一層広大であるが女農家  
の間隔は大きい。また、草草畑  
の増殖としてはあまり好適では  
ないが、小清水における平坦地  
の、比較的モヤシの草の少ない  
地域の状況は、くわていと  
いうようにある。

(しかし、別海地区のような平坦  
地での草が非常に多いことは  
やや異なっている。)



各の調査

スズメのキツネの足跡による  
home range の位置と越冬  
家との位置関係

---

札幌保健所

所長 栗村 幸雄

衛生課長 今泉 利徳

---

別海村農林共済

三原 修正 獣医師

田中 昇 所長

---

毎日放送

今泉 俊昭

---

中標津保健所 (Tel. 650)

所長 大脇 栄 2-2168

次長 佐々木 岳三郎

(衛生課長 青木 林)

倉屋乳肉係長 植竹 日出夫

---

一色旅館 2-2336

三原修正

野付郡別海村西別市街  
別海村農草芝津組合

カ

ス+カ

マツモト (刀耕園)

スジ(向)

園村氏  
高田

西和田

根室市本町 2丁目

園洋服店 T. 3734

(北平八付一横)

検査

園村 清

伊藤氏下宿

根室市花園町 9-12

渋谷金吾 Tel 0153220  
4446

(向)

西浜町 2-148

笹森照男方 Tel 3852

(金沢三ツ坊 5058)

野付郡別海村西別市街

数寄芳郎氏 (29号)

町別 西別家畜診療所

根室保健所 (海室町 2-1)  
富岡節 Tel 5161

根室支庁畜産課

稲葉辰雄

園本千代吉

カ清水町泉 3

MM

13

13

13

4

北13号. 东. 17日 → 27  
东号.

